

公益財団法人ライフ・エクステンション研究所付属

永寿総合病院・柳橋分院・予防医療センター

EIJU

広報誌 えいじゅ

VOL.
120

2026年2月発行

教えて!気になる病気の話

胃がんについて

院長・センター長
インタビュー

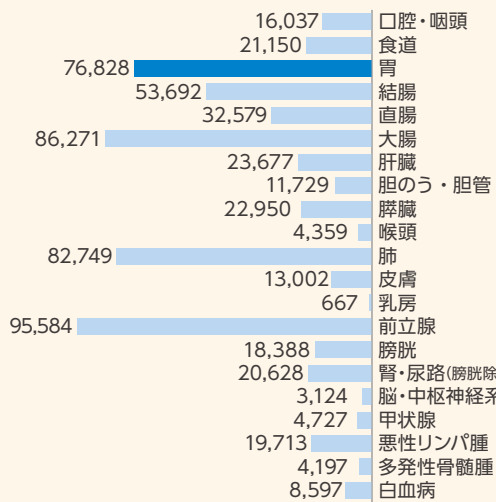
EIJUのできごと

上野・浅草 下町めぐり

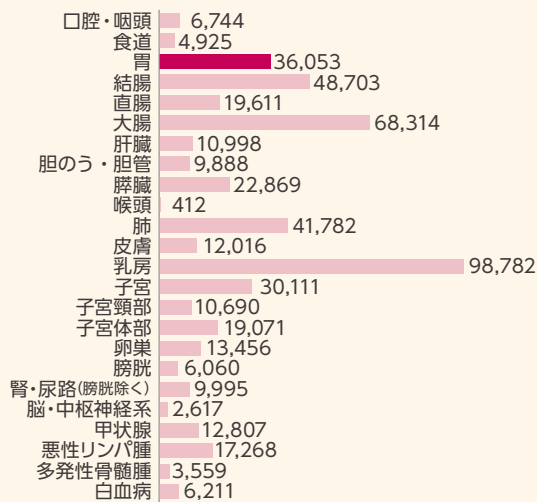


胃がんにかかる人の数

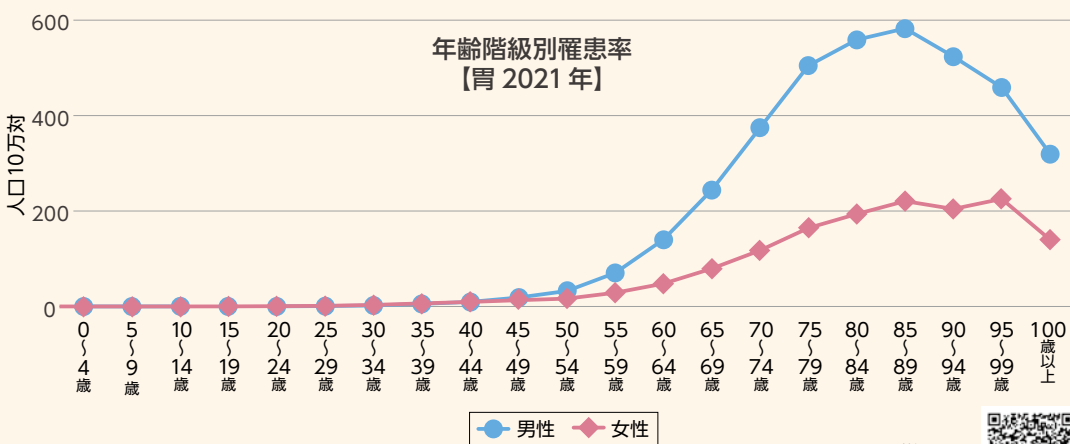
部位別がん罹患数
【男性 2021 年】



部位別がん罹患数
【女性 2021 年】



胃がんにかかりやすい年齢



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）

詳細は
こちらから

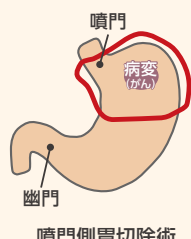
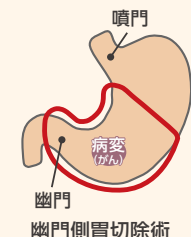
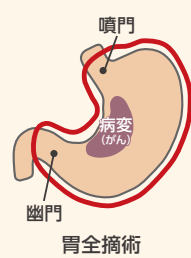


胃がんの統計と症状

日本は先進国の中で最も胃がんが多い国です。で、口内感染が多いこと、食事の塩分量が多いことが主たる要因です。2020年のがん統計によると、胃がんは男性では4番目に多く、約11人に1人が、女性では5番目に

約24人に1人がかかる計算です。年齢別に見ると、50歳を過ぎると罹患率が増え、80歳過ぎにピークを迎えます。進行すると、みぞおちの痛みや食思不振、吐血、黒色便などの症状をきたしますが、早期にはほぼ無症状です。そのため、早期癌は、検診や、他の理由でおこなった胃力メラで偶然みつかるケースが大部分を占めます。

胃がんに対する術式



出典：がん情報サービス HP から引用改変

胃がんの診断と治療

診断には、上部消化管内視鏡検査（胃力メラ）と病理組織検査、CT検査が必須です。病状により、PET-CT検査やバリウム造影検査を行うこともあります。がんは胃の粘膜から発生し、だんだんと深く根をはり、周りのリンパ節に転移します。さらに進行すると、肝臓や肺、腹膜などに転移をきたします。がんの深さ、リンパ節転移および遠隔転移（遠くの臓器への転移）の有無でステージを診断します。

治療には、内視鏡治療、手術、抗がん剤治療、緩和治療があります。病状により、適切な治療が変わってきますので、まずしっかりと診断をつけてから治療方針を決定します。手術では、がんのできた場所、大きさによって、切除する範囲が変わってきます。以前は進行がんであれば開腹手術が一般的でしたが、近

当院の診療体制

昨年、日本胃癌学会認定施設Bに認定され、内視鏡治療は消化器内科が、手術や抗がん剤治療は外科が、緩和治療は緩和ケア科が担当し、個々の病状に応じて適切な介入ができる診療体制が整っています。近年、薬物治療の進歩は目覚ましく、従来治せなかったステージ4の患者さんでも治せる可能性があります。外科医が抗がん剤治療を行うことで、最適なタイミングで手術を提案することができ、ステージ4の根治には非常に有用と考えています。今後とも胃がん診断された患者さんに「あきらめない胃がん治療」を提供してまいります。

病気の話

気になる

教えて！

胃がんについて



胃がんでどんな病気？怖い？治せない？知らない物事は怖いですが、今回は、胃がんについて知っていただき、当院での診療体制についても紹介します。

あおやま じゅんや
青山 純也

外科 副部長

専門

消化器外科（食道・胃）／一般外科

- ◇ 医学博士
- ◇ 日本外科学会専門医
- ◇ 消化器がん外科治療認定医
- ◇ 日本食道学会食道科認定医
- ◇ 日本食道学会食道外科専門医
- ◇ 日本消化器内視鏡学会専門医
- ◇ 日本消化器外科学会専門医
- ◇ 日本内視鏡外科学会技術認定医（胃）
- ◇ ロボット支援手術認定医（Da Vinci）
- ◇ 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ◇ 日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術認定プロクター（胃）
- ◇ 日本ロボット外科学会 Robo-Doc Pilot 認定



院長・センター長インタビュー

2026

2026年の干支は、60年に一度の節目を迎える「^{ひのえうま}丙午」です。
「丙午」は、鮮やかな輝きと力強い活力を象徴し、積み重ねてきた努力が形となり、新たなステージへと飛躍する年と言われています。
明るく力強いエネルギーに満ち、現状を打破して次なる高みへと進む年にふさわしく、当財団の未来に向けた決意や抱負を各施設長に聞きました。

永寿総合病院

医療コスト上昇を乗り越え、さらに頼れる病院に



院長 愛甲 聡

Profile
外科主任部長 兼任
専門は消化器外科（食道・胃・大腸）および一般外科
日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医
金（AM）木（PM）の外科外来を担当



天候にも恵まれ、爽やかな新年を迎えられたことと存じます。晴れやかな時期にそぐわないかもしれませんが、当院を取り巻く医療情勢について少し説明させて下さい。
永寿総合病院は、救急疾患や悪性疾患など緊急処置や手術を要する患者さんを受け入れる急性期病院です。こうした病院ではとくに薬剤や医療機器、光熱費、食品、それに外部に委託している業務の人員費などのコスト上昇が著しくなっています。それに対し、すべての診療の対価（診療報酬）は2年ごとに国家が改定していますが、国民の社会保障費の負担を増やさないという名目で、過去10年間一度もプラス1%を超えることはありませんでした。そうなるとう然支出が収入を上回り、当院も様々な経営努力をしてきましたが、全国の急性期病院と同様、昨年は収支がマイナスの月が続きました。幸い、当院は台東区の中核病院として区民の皆様に必要な、24時間365日の救急、小児科医がいつでも駆けつけられる体制での分娩、集中治療、緩和医療、認知症の診断・治療、災害時医療などの政策的医療を担っていることから、これに対する補助金をいただくことで閉院を免れています。国は人口減少に合わせて、余剰となる急性期病床を減らすために病院淘汰を促しているとも言われています。しかしながら、台東区の人口は今後30年ほどは増加すると試算されており、この病院を存続させることは我々の使命と考えています。できるだけ無駄を省くなどの工夫はしつつ、これまで以上にいつでも頼りにされる病院を目指してまいりますので、今後ともご愛顧の程よろしくお願いいたします。

永寿総合病院柳橋分院

専門職の充実と回復期リハ病棟のさらなる発展を



院長 米丸 亮

Profile
専門は一般内科および呼吸器内科
日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会指導医
月（PM）水 / 金（AM）土（AM1・3・5 週）の内科外来を担当



新年明けましておめでとうございます。平素より永寿総合病院柳橋分院をご支援いただき、誠に有難うございます。
本年は60年に一度の丙午の年です。先日参拝した伊勢神宮には真っ白な神馬が育てられておりました。その神馬に向かって当院の発展を祈念してまいりましたが、干支にちなんで今年は地域医療に向かって駆けてゆきたいと存じます。
2026年では日本人の5人に1人が75歳以上となっています。2040年頃には65歳以上の人口がピークを迎えます。世界に類を見ない高齢化社会の中で、当院は医療療養病棟、回復期リハビリテーション病棟で引き続き、台東区、千代田区、墨田区、江東区、中央区などにある近隣の急性期病院や大学病院からの患者さん方を積極的に受け入れ、地域医療を実践してまいります。理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、

言語聴覚士（ST）が手厚く配置されており、一人ひとりに合わせた質の高い訓練を受けられる回復期リハビリテーション病棟入院料1を獲得すべく、リハビリテーション専門職である療法師の採用に日々努力しています。病棟の40床がフル稼働に近い状態を維持していますが、区分1において毎日リハビリを実践することにより、さらなる早期社会復帰を目指してまいります。医療療養病棟では、快適な入院生活を送っていただくよう努めております。褥瘡の防止・改善、医療安全の向上ならびに身体抑制率低下にも取り組んでいます。外来診療では、木曜日前午の内科外来は、糖尿病専門医が診療しております。丙午では出生数が激減いたしますが、当院では高齢者の紹介患者さんが多いため病院運営に影響が出るのは22世紀です。両病棟とも可能な限り患者さんを受け入れてゆきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

永寿総合健診・予防医療センター

予防と早期発見で、健康寿命の延伸に貢献を



センター長 小山 恭正

Profile
日本人間ドック学会専門医
予防医療センターでの診療と永寿総合病院で月（PM）の外科外来を担当



新年おめでとうございます。
地域の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこと心よりお喜び申し上げます。平素より当センターの運営にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。
コロナのパンデミックは過去のものとなりましたが、通常の感染症の蔓延はとどまるところを知りません。また高齢化、生活様式の変化、異常気象、物価高など健康を取り巻く環境は大きく変化しています。
運動不足や食生活の乱れ、ストレスの増加などによる生活習慣病の予防と早期発見の重要性は、これまで以上に高まっています。当センターでは疾病の早期発見に加え、結果を今後の健康作りにかかっていただけという、わかりやすく丁寧な説明を心がけています。



受付

待合室

女性更衣室

「食」で支えるリハビリ！ WEBマガジンで新連載がスタート

当院では、回復期リハビリテーションにおける「栄養管理」を、患者さんの回復を支える大切な土台と考えています。管理栄養士が日々研究を重ねて考案している、彩り豊かで栄養満点なメニューを紹介する新連載「美味彩々」がスタートしました。毎月の行事やイベントに合わせた献立をピックアップし、旬の食材が持つ栄養素や健康効果について、プロの視点から分かりやすく解説しています。単なるメニュー紹介に留まらず、「なぜこの食材が体に良いのか」といった、日々の生活にも役立つ豆知識が満載です。

柳橋分院ホームページの「YANAGIBASHI かわらばん」より、ぜひ最新記事やバックナンバーをチェックしてみてください。



YANAGIBASHI
かわらばん



上野消防署との「救急研究会」を開催——多職種で救急搬送の症例発表を実施



2月3日、上野消防署にて「救急研究会」が開催されました。当院からは院長はじめ医師・看護師・救命士、地域連携事務からなる多職種が参加し、上野消防署からは約20名の署員の方がご参加くださいました。

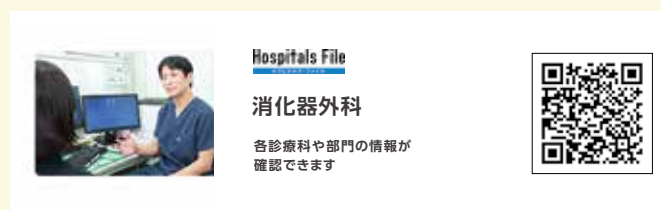
今回は、救急現場から病院での加療までを振り返るリレー形式での症例発表が行われました。まず、当院の脳神経内科部長・勝又医師が脳卒中症例や病態について解説を行いました。続いて、上野第1部救急隊より、現場での迅速な脳卒中判断から当院への搬送に至るまでの詳細な活動報告がなされました。その報告を受け、再び勝又医師が当院到着後の治療経過や患者さんの予後について詳しく説明しました。互いの状況や経過を共有し合うことで、一分一秒を争う救急活動から治療開始までの一連の流れや退院後の患者さんの状況を振り返りたいへん貴重な機会となりました。

当院ではこうした交流を通じて、上野消防署の皆様との信頼関係を大切に、地域の皆様へより円滑で質の高い救急医療を提供できるよう努めてまいります。

岸田医師のインタビューがホスピタルズ・ファイルに掲載されました

総合医療情報サイト ホスピタルズ・ファイルに、昨年10月に着任した消化器外科 部長 岸田医師のインタビューが掲載されました。

診療実績や対応できる疾患・治療、患者さんや地域医療機関へのメッセージをぜひご覧ください！



EIJUのできごと

永寿を応援、ご支援して下さってる方にも、まだ永寿をよく知らない方にも。

地域のみなさま・医療機関さまに、

ぜひお伝えしたい永寿・三施設のさまざまなできごとをご紹介します。

手軽にチェック！新オプション検査のご案内

予防医療センターでは、皆様の健康管理をより細やかにサポートするためのオプション検査を導入しております。



1 ご自宅で手軽に受診できる 「睡眠脳波検査」

専用のデバイスを用いて、ご自宅で寝ながら脳波を計測し、睡眠の「量」と「質」を高精度に測定します。

計測データは専門家によって詳細に解析され、睡眠の状態を5段階で分かりやすく評価し、改善に向けたアドバイスを提供します。

2 女性の健康と美容に深く関わる 「エクオール検査（ソイチェック）」

大豆イソフラボンから作られる、エストロゲンに似た働きを持つ成分「エクオール」を体内で作れる体質かどうかを、尿検査で手軽に調べることができます。

ご自身の体質を知ること、更年期症状への対策や、より自分に合ったサプリメントの選択など、ライフステージに合わせたセルフケアに役立てることが可能です。



ご予約・お問い合わせ先

TEL: 03-3833-7351

(受付時間 月～金 8:30～17:00 / 土 8:30～12:00 (日・祝除く))

ホームページ



第三回

上野・浅草
下町めぐり

—— まちを知り、その歴史を知る



東京都美術館



公式 HP

開館100周年
特設サイト

世界をひらく アートのとびら

日本初の公立美術館として、1926年（大正15年）に上野公園に開館しました。今日でいう「より良く生きる（ウェルビーイング）」を願った美学家・佐藤慶太郎氏の多額の寄付によって誕生し、今年で開館100周年を迎えます。赤レンガ調のモダンな建物は、建築家・前川國男氏の代表作として知られ、周囲の自然と調和した美しい空間が広がっています。特別展や公募展の他、ゆったりと過ごせるラウンジなどもあり、散策の合間に立ち寄れる憩いの場としても親しまれています。歴史ある空間で心安らぐアートを身近に感じられる、上野の森のシンボリックな美術館です。（公式HP・特設サイトより）

・・・ 東京都美術館公式 SNS ・・・

X
@tobikan_jpInstagram
@tokyometropolitanartmuseum

©東京都美術館

まちを知り、その歴史を知ること、地域への思いを深める「上野・浅草 下町まちめぐり」。第3回は「東京都美術館」です。

上野公園を散策していると、温かみのある赤レンガ調の建物が優しく迎えてくれます。

今年 開館100周年を迎える歴史ある美術館ですが、一歩足を踏み入ると穏やかな空気に包まれます。展覧会を見るだけでなく、建物内のラウンジに座って、静かに緑を眺めたり、ゆったりと建物の中を歩いたりするだけで、良い気分転換になります。お散歩の途中にふらりと立ち寄り、心安らぐアートなひとときを過ごしてみたいかがでしょうか。

皆様からの温かいご寄附を
お待ちしております

永寿総合病院・柳橋分院・予防医療センターは運営に対し、企業や個人の皆様方から広く寄附金を受け入れ、その成果を通じて地域医療の向上や必要とされる医療を確保し社会貢献に役立てます。

なお、当財団への寄附は、税制上に優遇措置があります。
（詳細についてはお問い合わせ下さい）

寄附金の使途

1. 病院に必要な設備の拡充
2. 病院に必要な機器・消耗品の購入
3. 成人病を中心とした予防治療等の調査・研究に使用します

お問い合わせ
お申し込み財団事務局 寄附係
TEL 03 (3833) 8383

アクセス



地域医療支援病院 / 東京都災害拠点病院

永寿総合病院



回復期リハビリテーション / 医療療養型病棟

永寿総合病院柳橋分院



日本人間ドック学会認定 / 日本脳ドック学会認定

永寿総合健診・予防医療センター

公式 SNS は
こちらから

公式 X

産婦人科
Instagram薬剤部
Instagram